HAIGE

除雪機

取扱説明書

HG-K6560B

ご使用になる前に、必ず取扱説明書をお読みください。

おねがい

このたびはハイガー製除雪機をお買い上げ賜わり厚くお礼を申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取扱と保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願い致します。 なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

注意文の ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の意味について

使用上の注意事項は、下記マークで表示しています。

⚠危険　誤った取り扱いをした場合、死亡または重傷を負う可能性がある場合のご注意。

⚠警告　誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合のご注意。

⚠注意　誤った取り扱いをしたとき、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合のご注意、及び物的損害のみの発生が想定される場合のご注意。

⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。 いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

本書の内容は、後日変更する場合があります。
本機は国内専用です。

もくじ

おねがい	2
もくじ	3
安全にお使いいただくために	4
重要ラベル	5
各部の名称	6
運転前の点検	7
運転操作のしかた	9
除雪作業の操作要領	16
点検・整備のしかた	17
長期間使用しないとき	27
故障と思ったら	28
主要諸元	30
お客様ご相談窓口	31
品質保証規定	32

⚠ 警告

●作業を始める前に

・すべりにくい靴、防寒服、手袋などの作業に適した服装を心掛けてください。
・正しい操作を知らない人、子供には操作をさせないでください。
・視界が良くないときは使用しないでください。

・エンジンを始動する前には使用前点検を必ず行ってください。
・燃料は無鉛ガソリンを使って下さい。
・燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行って下さい。
・燃料をこぼさないように注意し、燃料タンクキャップを確実にしめてください。もし、燃料がこぼれた場合はきれいにふき取って下さい。
・排気ガスには十分に注意してください。
・バッテリー液を身体や衣服につけないでください。 万一付着したときは、すぐに水で洗い流して下さい。

●作業中の注意

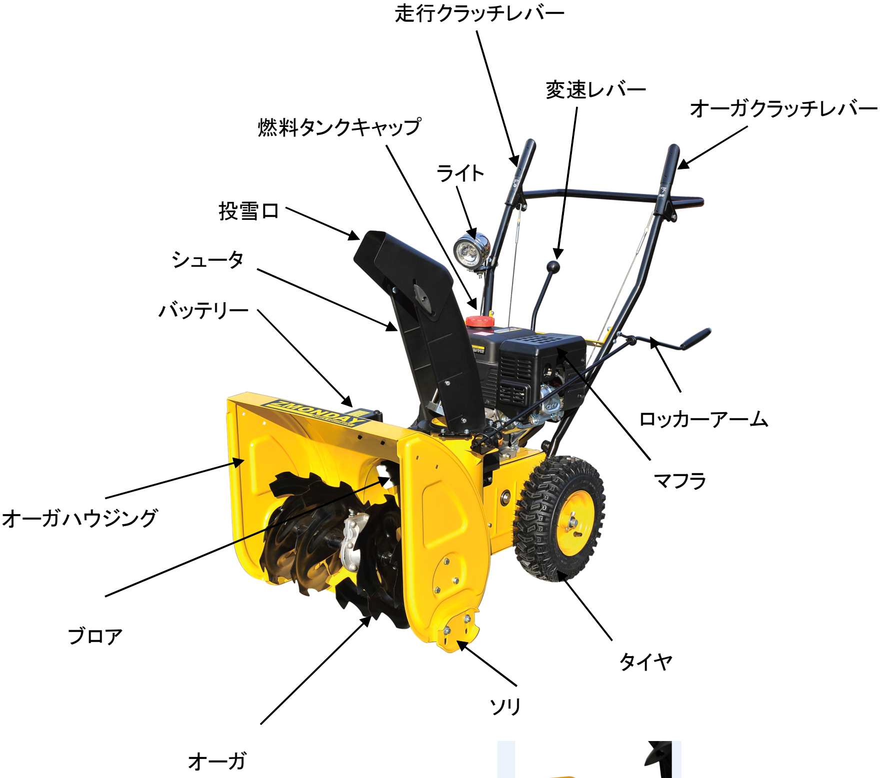
・回転している部分の近くに手又は足を入れないでください。
・除雪する場所の異物はあらかじめ取り除いておいてください。
・投雪方向に十分注意してください。
・坂道の走行には注意してください。
・雪詰りを取除くときは、必ず雪かき棒を使用してください。
・雪の中に石が混入していると遠くまで飛ぶ事があるので十分注意してください。
・除雪部が異物に突き当たったり、巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、除雪機が損傷されていないかを調べてください。損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ除雪機を再始動しないでください。
・後方へ走行するときは、足元ならびに背後の障害物に十分注意し、転倒したり障害物に挟まれないように運転してください。
・傾斜面を横切って除雪しなでください。傾斜面で方向を変える場合には、十分注意をしてください。

●保管のときの注意

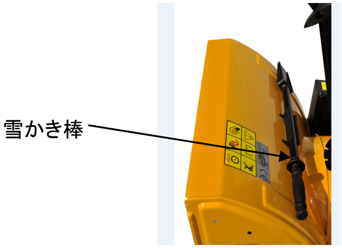
・除雪機を長時間保管するときは、取扱説明書にしたがって保管してください。
・シートカバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。
・オーガ　ハウジングを接地させ、運転キーを抜いてください。
・定期点検整備を行ってください。

重要ラベル

本体に貼付されているラベルをよくご確認いただき、ラベルの指示に従ってください。



走行クラッチレバー
変速レバー
オーガクラッチレバー
燃料タンクキャップ
ライト
投雪口
シュータ
バッテリー
ロッカーアーム
マフラ
オーガハウジング
ブロア
タイヤ
ソリ
オーガ



雪かき棒

●燃料の点検

燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。

・燃料タンクキャップを外し、液面を見て残量を確認します。
・少ないときは上限の位置まで補給してください。

補給のしかた

使用燃料　自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）

燃料タンク　3L

補給後、給油キャップを確実に閉めてください。

燃料キャップ

⚠ 警告

・点検、整備を行うときは、エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行って下さい。
・火気を近づけないでください。
・静電気を除去してから給油してください。
・燃料はこぼさないように補給してください、万一こぼれたときは完全にふき取って下さい。
・燃料は注入口の口元までいれず給油限界位置を超えないように補給して下さい。

⚠ 注意

・補給時、燃料タンク内に水、雪、氷が入らないように注意してください。
・ハイオクガソリンは使用しないでください。

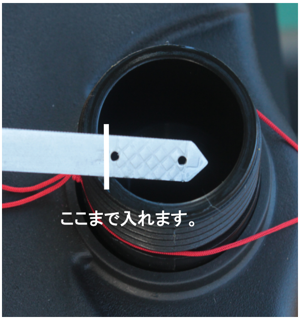
●エンジンオイルの点検

エンジンオイルの量、よごれを点検します。

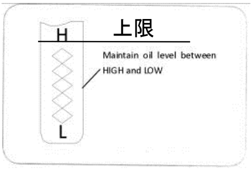
1.車体を水平な場所に移動させます。
2.オイルキャップを外します。
3.オイルゲージの上端までオイルがあるか点検してください。
4.オイル量が少ないときは、新しいオイルをオイル給油キャップを開けて
補給してください。

推奨オイル	SAE 5W-30
オイル容量	0.6L

オイル給油キャップ



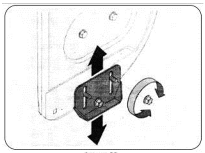
オイルゲージ



●ソリの高さ調節

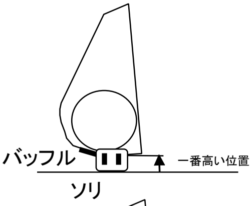
除雪する路面の状態に合わせてソリのボルトを緩めて調節します。

ソリの高さを調節した後しっかり締めます。



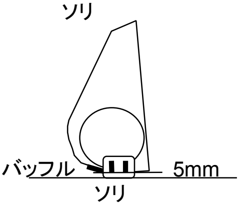
◆砂利などが多い路面など

バッフルが路面から一番離れるよう、ソリを固定します。



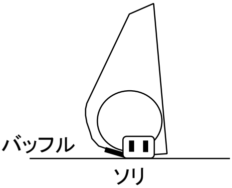
◆ 普通路

バッフルを路面から5㎜持ち上げた状態でソリを固定します。



◆ 圧雪路

バッフルを路面に接地した状態でソリを固定します。



⚠ 警告

・点検、整備を行うときは、エンジンを停止してください。

●投雪距離と方向の調整

投雪口の角度を変えるには、写真①の左右のつまみを緩め、調節します。
上向きにすると、投雪距離が長くなります。

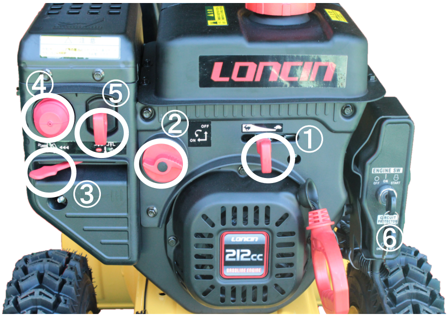
ロッカーアームを右に回転すると、投雪口も右に回転します。

ロッカーアームを左に回転すると、投雪口も左に回転します。

⚠警告

・投雪の際、回りには十分ご注意下さい。
・投雪口を調整する際は、回転している部分に十分注意してください。

●エンジンのかけかた



1.①のレバーでエンジンの
回転数をウサギ側
(高回転)にします。

2.②のガソリンコックを
横向き(ON)に回します。

3.③のチョークつまみを
左側にします。

4.④の燃料ポンプを3～4回
軽く抵抗を感じる程度まで
押して下さい。

5.⑤の緊急スイッチを差込ます。

6.⑥のエンジンスイッチを「START」の位置まで
右にまわし、エンジンを 始動します。

7.　エンジンを起動後暖気運転を行い、
運転状況を確認します。
異常がなければ③を右にします。

⚠ 注意

⑤は緊急スイッチです。必ず挿入してから始動して下さい。
赤いプラスチックキーの穴の部分に紐を取り付け、作業に邪魔にならない長さで体に結び付けてください。緊急時にキーが抜けることでエンジンがストップします。

走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを握った状態でエンジンを始動しないでください。

●リコイルを使用したエンジンのかけかた

スターターを使ったかけかたの1.から5.までは、同じ手順です。
6.　エンジンスイッチを「ON」の位置まで回します。
7.　リコイルスターターを引きます。
8.　エンジンを起動後暖気運転を行い、運転状況を確認します。
異常がなければ③を右にします。

●エンジンのとめかた

1. 変速レバーを"1"の位置にします。
2. オーガ・ブロア内の雪を飛ばします。
3. 走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーを離します。
4. エンジンスイッチを「OFF」停止の位置まで回しエンジンをとめます。
5. ②ガソリンコックを縦に（OFF）します。

エンジンスイッチ

⚠ 警告

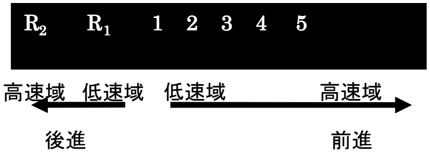
除雪機は水平な場所に駐車してください。

●スピード調整

前進、後退の切り替え及び走行速度を変更します。

前進　変速レバーを右に動かします。
スピードは5段階で、位置1は最も遅く、位置5が最も速くなります。

後進　変速レバーを左に動かします。
スピードは2段階で、位置R1は最も遅く、位置R2が最も速くなります。



⚠ 注意

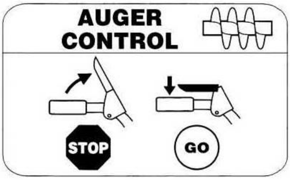
変速レバーの操作は、走行クラッチ、オーガクラッチの両方のレバーを離した状態で行って下さい。
走行クラッチをにぎったまま、変速レバーを操作すると、変速輪クッション破損の原因になることがあります。

⚠ 警告

作動前に機械についての、およびこのマニュアル中の指示および警告をすべて読んで、理解して、指示に従ってください。

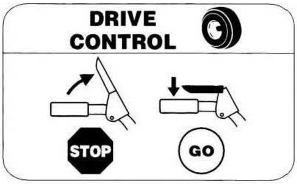
●走行クラッチとオーガクラッチの操作

オーガを回転させるには、左ハンドルにあるオーガクラッチレバーを握ります。
止めるには、オーガクラッチレバーを放します。



走行するには、右ハンドルにある、走行クラッチレバーを握ります。

前進、後進、走行スピードは、変速レバーを操作します（P13参照）。



・除雪機を移動させるときは、走行クラッチレバーを握ります。
・走行クラッチレバーを握りながらオーガクラッチレバーを握ると、走行しながら除雪が出来ます。

・変速レバーで、除雪作業に適した速度に調整します。

●投雪口に詰まった雪の除去

⚠ 警告

・投雪口につまった雪を除去するときは、エンジンを停止し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取り除いてください。
・エンジンが回っているときは、絶対に手を入れないでください。機械に巻き込まれ重傷を負うおそれがあります。

1. エンジンを停止させ、オーガ、ブロワの回転が停止したことを確認してください。

2.雪かき棒を使ってつまった雪を除去してください。
雪かき棒はオーガカバーに備え付けられています。
除去作業が終わったら雪かき棒を元の位置に取り付けてください

除雪作業の操作要領

1.固くなった雪などで除雪部が乗り上げる場合には、前、
後進を繰り返すことで、平らに出来ます。

固い雪が写真①のシューターロッドにあたり細かく
なり、飛ばしやすくなります。

2.湿った雪の場合、投雪口に雪が詰まりやすくなります。
その場合は、走行速度を下げて、一度に除雪する量を
減らして下さい。

3.深い雪や重い雪の除雪時に、エンジン回転が落ちた場合

・エンジン回転が回復するまで変速レバーを"1"に合わせてください。
・除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら前進してください。

また、除雪部に掛かる雪幅を狭くすると、除雪しやすくなります。

4.積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合などは段階的に除雪を行います。
除雪部を少し上げたり、ソリの高さを調整します。 雪壁の切削量が大きい場合
シャーピンが折れることがあるので、進入スピードには注意してください。

いつまでも安全にお使いいただくために定期点検を行ってください。

除雪期のはじめ

除雪期の終了

保管

▼シーズン前点検

エンジンオイル交換 P18
点火プラグ点検 P19
ベルト点検　P25

▼初回20時間点検

エンジンオイル交換 P18

▼シーズン終了点検

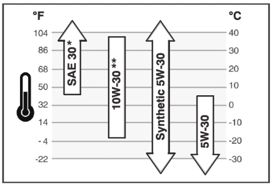
タンク・キャブレターの
燃料抜き　P21
各部防錆塗布・給油　P23
バッテリ接続コード
取外　P22

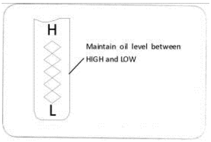
▼運転前点検

燃料の点検　P7
エンジンオイル点検・補充　P8
タイヤの点検　P20
ベルト点検　P25
オーガ点検　P24
各部給油　P23
ねじの緩み

●エンジンオイルの交換　オイル点検のしかたは　P8を参照してください。

交換時期	初回20時間 以降、除雪期のはじめ
推奨オイル	使用オイル　SAE 5W-30
規定量	0.6L





交換のしかた

1.機械を水平な場所で水平な状態にします。

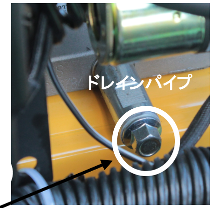
2.オイル受けを用意してください。

3.オイル給油キャップ、ドレインボルトを外してオイルを抜きます。ドレインパイプが一緒に回らないように、パイフを押さえながら、ドレインボルトを回します。

4.オイルが抜けたらドレインボルトを確実に締めます。

5.新しいエンジンオイルをレベルゲージの上限まで入れます。

6.注入後、オイル給油キャップを締めます。



①ドレインボルト

②オイル給油キャップ

●点火プラグの点検・清掃

点検時期	除雪期のはじめ
交換時期	250時間運転毎
点火プラグ	TORCH　F7RTC NGK　BPR7ES DENSO　W22EPR-U

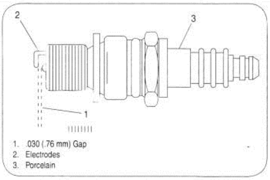
点検のしかた

1.点火プラグキャップを取り外します。

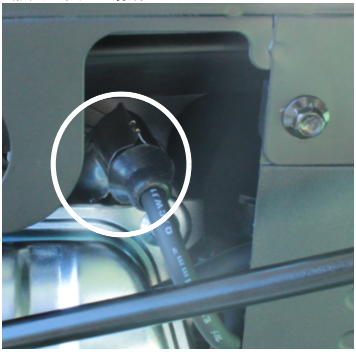
2.点火プラグを取り外します。

3.点火プラグをワイヤブラシで清掃します。

4.隙間は0.7mm～0.8mmが適切です。



点火プラグの場所



●タイヤの点検、メンテナンス

点検時期　　除雪期のはじめ

点検のしかた

目視にて破損や亀裂が無いかを確認して下さい。
パンク、亀裂が見つかった場合は、修理または新品と交換してください。

タイヤの空気圧を確認して下さい。
空気圧は1.5kgf／cm2（150Kpa)になります。

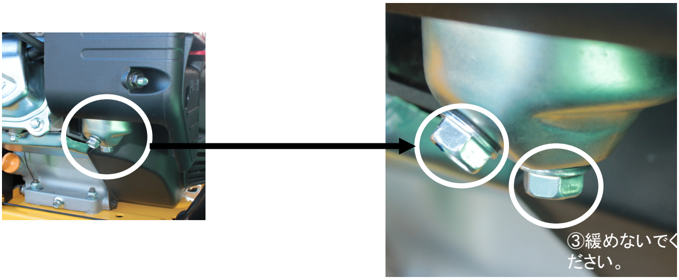
●燃料系の点検・メンテナンス

燃料タンクのガソリン、キャブレターのガソリンを抜きます。
ガソリンを受ける容器を用意してください。

1.燃料タンクのキャップを外し、タンク内の燃料を抜きます。

2.ガソリンコック①をONにします。

3.②部分のボルトを緩めて、ガソリンを容器にうけます。
キャブレターの燃料を抜くことができます。



③のボルトは絶対に緩めないで下さい。

⚠ 注意

こぼれたガソリンは布などで、直ちにふきとってください

●バッテリー点検、整備

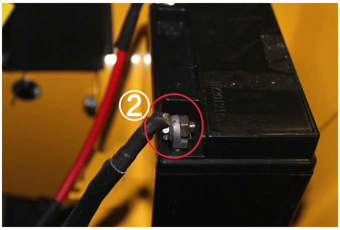
点検時期　　除雪期のはじめ

点検のしかた　バッテリ端子との接続が、しっかり固定されているか点検します。
緩んでいる場合は、しっかり固定されるまでナットを締め直します。
腐食（白い粉、サビなど）が見られる場合は、ワイヤーブラシなどで取り除きます。

■バッテリーマイナス端子の取り外し

写真①がバッテリーです。②カバー横のボルトを緩めカバーを本体から外しバッテリーを取り出してください。

写真③がマイナス端子(黒色配線）です。 ボルトを緩めて取り外します。



⚠警告

＋端子とショートしないよう十分注意してください

■バッテリーの保管方法

バッテリーは、保管時はマイナス端子を取り外したままを推奨します。
また来シーズンご使用前に必ず充電を行いバッテリーの状態を確認してからマイナス端子を取り付けて使用してください。満充電時に12.3V以下ならば交換をお勧めします。
（廃バッテリーの処理は各自治体または弊社にお問い合わせください。）

⚠注意

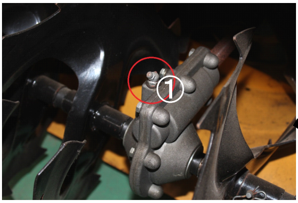
バッテリーを充電するには、バッテリー充電器を用意してください。 充電方法は、バッテリー充電器の取扱説明書にしたがって下さい。

●各部の給油、点検

回転部分、擢動部分にグリースを注油してください。

⚠警告

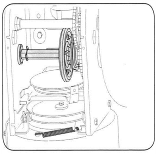
回転部分の点検は絶対にエンジンがかからないことを確認して行って下さい。また軍手などの着用は絶対に避けて下さい。



1.写真①のニップルにグリースガンを
使用しグリースを充填して下さい。

⚠注意

変速輪クッション、シンクロホイールにグリスが付かないようにしてください。



●オーガ、ブロアの点検

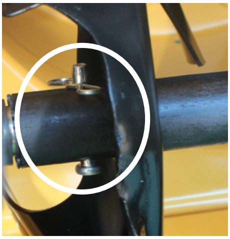
⚠警告

回転部分の点検は絶対にエンジンがかからないことを確認して行って下さい。また軍手などの着用は絶対に避けて下さい。

・オーガ部分に破損や変形が無いか目視で確認して下さい。またシャーピンに折れや亀裂が無いか確認して下さい。
・オーガは路面との接触により磨耗します。 磨耗したオーガは新しい部品に交換してください。
・ブロワ部に破損や変形、異物の挟み込みがないか目視にて確認して下さい

● シャーピンの取り付け方

・エンジンを停止します
・雪が詰まっている場合は排除し、ボルトを取り付ける場所はきれいにして下さい。
・ボルトを通して、Rピンを差込ます
・シャーピンは専用品を使用してください



シャーピンとは?

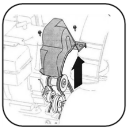
シャーピンとは、除雪機のオーガを固定しているボルトで、 除雪中に石など硬いものにオーガをぶつけてしまった時に、その衝撃を、ギア部分まで伝達させなくするために、シャーピンが折れる事でこれを防いでいます。 よって、シャーピンは、やわらかく折れやすい材質のボルトを使用しています。

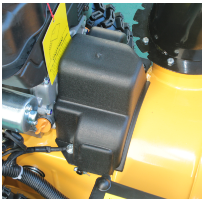
●ベルト周りの点検

⚠警告

・回転部分の点検は絶対にエンジンがかからないことを確認して行って下さい。また軍手などの着用は絶対に避けて下さい。
・本体を傾けるときは、ガソリンを抜いて下さい。
・本体を傾けての作業は十分気をつけてください。

1.投雪口横の黒い樹脂製カバーを取り外してください。

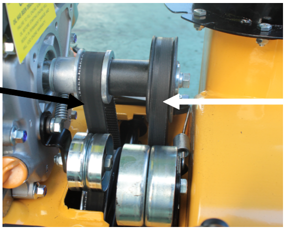




2.写真②部分のオーガベルトに磨耗や亀裂が無いか確認して下さい。

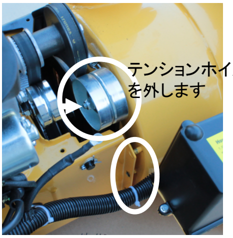
3.写真③部分の走行ベルトも同様に確認して下さい。

破損、亀裂があった場合はそれぞれのベルトを交換をしてください。



●ベルトの交換

1.投雪口横の黒い樹脂製カバーを取り外してください。
2.テンションホイルを止めているをナットを緩め、テンションホイルを外します。
3..オーガハウジングと本体を接続しているボルトを外します。
4.プーリーから、ベルトを外します。
5.新しいベルトに交換します。
6.外したボルトをしっかり締め、テンションホイル、カバーを戻します。



テンションホイル取外し
オーガハウジングを離した状態

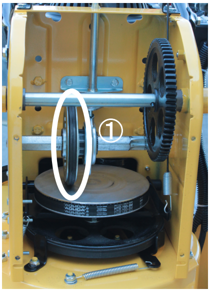
●変速輪クッションの点検・交換

⚠警告

・回転部分の点検は絶対にエンジンがかからないことを確認して行って下さい。また軍手などの着用は絶対に避けて下さい。
・本体を傾けるときは、ガソリンを抜いて下さい。
・本体を傾けての作業は十分気をつけてください。

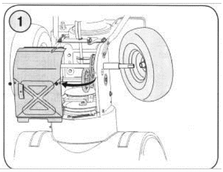
写真①の変速輪クッションに磨耗や破損、亀裂が無いことを確認して下さい。

破損、亀裂があった場合は変速輪クッションの交換をしてください。

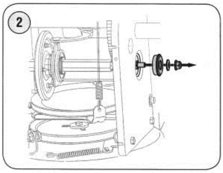


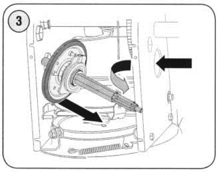
●変速輪クッションの交換方法

1.変速レバーを"3"の位置に入れてください。
2.ガソリンタンクからガソリンを抜きます。
3.除雪機を十分注意して傾けます。

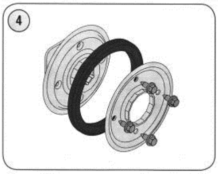


4.図①、除雪機の底にあるアンダーカバーを外します。
5.図②、ナットを外し、ベアリングを抜き取ります。
6.図③、変速輪クッションが付いているシャフトを外します。





7.変速輪クッションを挟んでいる変速輪軸受けふたを開いて、変速輪クッションを交換します。
8.分解したときと逆の手順で組み立てます。



長期間使用しないとき

除雪期が終わりましたら、次の手入れを行い、保管してください

⚠警告

・エンジンキーを抜き安全を確保し作業を行って下さい。
・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめて下さい。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。

⚠注意

・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい
・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

1.保管するときは、オーガを接地させてください。

2.エンジンキーを抜いて下さい。

3.燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。

4.燃料タンクの口にある、燃料ろ過カップを清掃します。

5.バッテリーの手入れをします。

6.各部ボルトの破損、腐食、緩みの点検をします。

7.防錆、給油を行います。

機械が故障と思われるときは、まずご自身で下表を参考に点検・修理を行ってください。

●エンジンがかからない

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない	①始動スイッチボタンの不良、 ②スパーク・プラグ不良 ③スパーク・プラグ・キャップ接続不良 ④イグニッションコイルの不良 ⑤イグニッションに関る配線不良	交換 交換 調整 交換 正しく接続
キャブレターに燃料が来ていない	①燃料がはいっていない ②燃料コックが閉じている ③燃料ホースの詰まり、漏れ ④燃料タンク錆びまたは、異物混入による詰まり	燃料を入れる コックを開く フィルタ清掃、交換 交換、フィルタ清掃
エンジン内に燃料が来ていない	①キャブレータ詰まり（ニードル・バルブ膠着）	キャブレタ分解掃除
セルが回らない	①バッテリがあがっている ②バッテリ端子が外れている ③ヒューズが切れている ④除雪クラッチ、走行クラッチを握っている	交換 正しく接続 交換 クラッチを離す

故障と思ったら

●うまく走行できない

現象	原因	対処
前進走行しない	変速輪クッションが磨耗、亀裂がある 走行ベルトが磨耗、亀裂、破損 走行ワイヤ破損	変速輪クッション交換 走行ベルト交換 走行ワイヤ交換
進みにくい	シャーピンが折れている オーガの高さが適性でない 除雪部に雪が付着、堆積している	ピン交換 ソリの高さ調整 堆積した雪を雪かき棒で落とす
後進しない	オーガの高さが適切でない	ソリの高さ調整

●うまく除雪作業ができない

現象	原因	対策
シュータから雪が出ない	シュータに雪が詰まっている	雪かき棒で落とす
雪を集められない	オーガに雪がついている	雪かき棒で落とす
オーガが回転しない	シャーピンが折れている	シャーピン交換
雪のとびが悪い	エンジンの負荷が高い シャーピンが折れている	走行速度をあげる シャーピン交換
固い雪に乗り上げて食い込まない	オーガの高さが適切でない シャーピンが折衝している	ソリの高さ調整 シャーピン交換
オーガが路面に当たる	オーガの高さが適切ではない	ソリの高さ調節

主要諸元

エンジン	LONCIN LC170FDS 寒冷地仕様 4サイクル
排気量	212cc
定格出力	4.4kw/3600rpm
エンジンオイル	SAE 5W-30
エンジン燃料	無鉛ガソリン
最大投雪距離	15メートル
最大除雪幅	56cm
深さ	51cm
投雪方向	190度
最大投雪速度	1700平方メートル/h
起動方式	リコイルスターター ＆ セル
ギア	5進2後
燃料容量	3L
オイル容量	0.6L
本体重量	78kg
本体サイズ	1400×590×1100mm
梱包サイズ	890×620×660mm

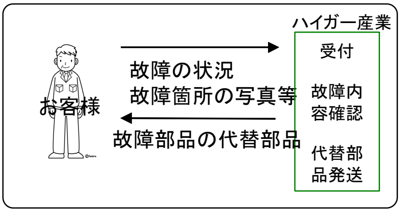
この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

お客さまご相談窓口

まず、「故障と思ったら」(P28)を参考に、ご自身で点検してください。

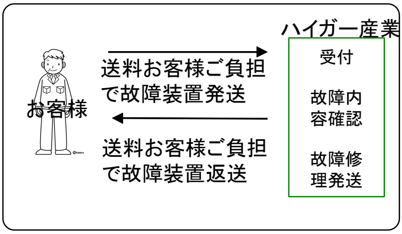
●故障部品をお客様で交換される場合

保証期間内は消耗品を除き壊れた部品は当社で保証します。
送料は全てお客様のご負担となります。



●故障品をメーカーで修理する場合

保証期間内の本体修理も無料で承ります。
その際に生じる往復の送料はお客様のご負担となります。



修理を依頼される時は
下記の事項をご連絡ください。

① 故障の状況
② 型式
③ 製造番号
④ ご購入年月日
⑤ お名前、ご住所、電話番号

お問合せ先
本社　ハイガー産業株式会社
〒370-0503
群馬県邑楽郡千代田町赤岩3072-3
TEL0276-55-2275　　FAX0276-55-2276

品質保証規定

保証期間：1年間（消耗部品を除く）
部品購入可能期間：機種生産中止まで。

保証期間内であれば消耗品を除き部品が壊れても当社で保証をいたします。
保証期間内の修理も無料で承ります。その際に生じる往復の送料はお客様のご負担となります。 あらかじめご了承ください。
部品の交換をお客様でされる場合はお電話、又はメールでご連絡の後、破損した部品を当社までお送りください。確認出来次第お客様に部品をお送りさせていただきます。 送料は全てお客様のご負担となります。

以下に該当する故障は保証の対象外といたします。
1）改造や社外パーツを用いての使用
2）誤った使用方法による故障
・凍った雪の除雪や投雪口に雪を詰まらせた状態での使用等
3）定期的なオイル交換をしなかった場合、又はオイルの入れ忘れによる故障
・オイル交換：初回20時間、以降50時間毎に交換
オイル粘度；4サイクルSAE5W-30
4）燃料を入れた状態での長期放置による部品の劣化
・燃料ホース、キャブレターなどが傷むので燃料は抜いて保管してください。
5）管理不足による故障・雨ざらしや塩害による劣化、ボルトの緩み、凍結によるワイヤーの破損等
6）使用損耗及び消耗
・塗装の剥がれや錆、凹み、異音等
7）外的要因
・自然災害や盗難等
8）使用環境に影響する性能
・投雪口に詰まる雪、雪の水分量により影響を受ける投雪距離等
9）以下の消耗品の破損・紛失
・燃料・潤滑油・シャーピン・オーガ（回転刃）・オーガベルト・走行ベルト
・ワイヤー・ライト・配線
・モーターブラシ・点火プラグ・ボルト・ナット・ワッシャー
・キャブレター
・ゴムパーツ（タイヤ、クローラー含む）・バッテリー・リコイル紐・エアクリーナー
・付属品

※修理業者で修理された場合の工賃はお客様のご負担となります。
※部品は在庫切れとなった場合、取寄せ後の修理、発送となります。
※機種生産が終了になった場合には、部品のご提供も終了となります。